

柳ヶ平散策

ねらい	霧島の豊かな自然の中を散策し、雄大な自然との出会いに感動しながら、自然に対する興味を深める。	
時間・費用	・ 2～3時間	・ 無料
対象・人数	・ 幼児以上	・ 100人程度
場所	柳ヶ平（霧島市牧園町高千穂）	
準備・道具	【参加者が準備する物】 ・ 筆記用具、メモ帳 ・ 植物図鑑 【ふれあいセンターで準備する物】 ・ 双眼鏡 ・ 植物図鑑	
コース等	ふれあいセンター→柳ヶ平散策路（命の洗濯場）→ふれあいセンター	
留意事項	(1) 事前踏査を十分に行い、安全面に十分留意しましょう。 (2) 貸出用具を確実に返却しましょう。 (3) むやみに採集しないよう、自然保護に気を付けましょう。	
実施方法	【内 容】 ※ 貸し出し用具の借用 1 整列、あいさつ 2 散策の心構え、コースの説明 3 植物・樹木・生き物観察 (1)植物や樹木を図鑑で調べる。 (2)生き物の種類を調べる。 4 命の洗濯場からの眺望 (1)東方に霧島山、南方に錦江湾と桜島等、地理を調べる。 5 まとめ 気付いたこと、発見したことなどを発表する。 ※ 貸し出し用具の返却	【留意点】 ○ 野外活動は無理なく楽しく行う。 ○ 道路を歩くときには、交通ルールを守る。 ○ 図鑑を参照する。 ○ むやみに採らない、捕らない。

MAP



季節による見所等＜眺望、観察ポイント＞

- ・ 平成19年3月、鹿児島県で初めて「森林セラピー基地」に認定された霧島の森の一つである。（他に「丸尾自然探勝路」と「手洗散策路」がある。）
- ・ 丘陵地の頂上から東方に霧島山、南方に錦江湾と桜島が一望できる360°大パノラマが広がり、「命の洗濯場」とも呼ばれている。

柳ヶ平自然散策路 (S→A→B→C→G)



植物の簡単豆知識

番号	植物名 (花期)	説明
①	アカメガシワ (夏)	新葉の芽出し部分が赤いので「アカメ」。
②	ムベ (春)	葉は3~7枚の小葉からなり、厚くて光沢がある。先がとがっている。5月頃、白い花をつける。薄紫色っぽいものもある。アケビと違って、熟して裂開しない。
③	チジミザサ (秋)	歯の形がササに似ていて、やや縮んだようなしわがある。
④	エビツル (夏)	秋には、ぶどうに似た房状の実を付ける。
⑤	ガマズミ (夏)	「神つ実」。ズミと付くことから、染料として用いられた？霜が降る頃には、実が甘くなり、食べられる。
⑥	イヌザンショウ (夏)	サンショウより香りが悪い。とげは互生。
⑦	イロハモミジ (春)	イロハカエデとも呼ばれ、秋には紅葉する。
⑧	ハゼ (春)	秋の季語。果実は、「薩摩の実」と呼ばれる。薩摩藩は、パリ万博にハゼで作った木蟻を出品している。
⑨	マルバハギ (秋)	花柄が短く、葉の間に咲いているように見える。
⑩	ウルシ (夏)	樹皮から漆を採る。果実は乾かして絞って木蟻をとる。
⑪	ヘクソカズラ (夏)	「ヤイトバナ」「サオトメバナ」とも言う。リースの材料としても重宝。生の実は臭いが、乾燥すると臭いは消える。
⑫	イタドリ (夏)	茎は中空。竹に似る。種には3枚の葉。
⑬	ネムノキ (夏)	夜になると葉が閉じる(就眠運動)ことからネムノキ。「合歓木」は、夫婦円満の象徴。花言葉は「歓喜」。夏の季語
⑭	エノコログサ (秋)	「犬っころ草(いぬっころぐさ)」が転じてエノコログサ。脱穀して食べることができる。(粟の原型)ネコジャラシ。
⑮	クリ (春)	春先になると白い花が咲き始め、その頃悪臭がする。秋には実ができる。
⑯	アオツツラフジ (夏)	有毒。ツツラを編むのに使われる。
⑰	クサギ (夏)	葉に臭みがある。星形に開く。
⑱	ベニバナボロギク (秋)	伐採後に出現(先駆植物)。家畜や家禽のえさになる。国外では、野菜として利用しているところもある。
⑲	ヤマジノホトギス (秋)	おしべには紫色の斑紋はない。花は葉腋に1~数個咲くが、小さな個体や一度刈り取られた個体では、頂部にしか花が咲かないことが多い。
⑳	カラスザンショウ (夏)	サンショウより大きな葉。紅紫色の実。枝はすりこぎに使う。
㉑	オオエノコログサ (秋)	アワとエノコログサの交雑種である。
㉒	ナンバンギセル (夏)	ススキの根に寄生する。葉は退化しているため、光合成はできない。
㉓	ヤマイモ (夏)	雌雄異株。雄花は上向き、雌花は下向きになっている。秋には、ムカゴができ、食べられる。
㉔	カラスウリ (夏)	秋には朱色の果実ができ、夜間だけ花が開くことが知られている。